

夢を描いて

年間1000件の修理を手がける おもちゃの「ドクター」たち

趣味を生かして地域に貢献
性別や世代を越えた幅広い
交流と生涯にわたるイキイキ
とした社会参加を実現



浦和おもちゃの病院 院長 松井政春さん

ホームページ **浦和おもちゃの病院** で検索

<http://urawatoy.web.fc2.com/>

物を大切に
する心を
育みたい
「壊れたおもちゃを救い、子ども
たちに物を大切に
する気持ちを持っ
てほしい」と願
い、活動を行っ
てい

活動日、ドクターたちがさまざま
な理由で「入院中」となったお
もちゃを診ていると、家族連れや、

持ち主の笑顔がやりがい

動はほぼ毎週末で、メンバーには都
合のいい場所や時間帯に参加して
もらっています。女性は2名です
が、手がける修理に男女による違い
はなく、メンバー同士で協力しあい
修理を行います」と3代目院長の松
井さん。高齢で一人暮らしのメン
バーにとっても、活動は大切なつな
がりの場になっています。

る「浦和おもちゃの病院」。
障がい児が気兼ねなく遊
べる場所づくりを目指す
「浦和トイライブラリーお
もちゃ箱」の、おもちゃ
の修理をしていた人たち
を中心に、2001年に
発足しました。
メンバーは27名。浦和
ふれあい館をはじめ、各
公民館などを活動場所と
して、年間のべ90か所
で活動を行っています。「活

思い出のあるおもちゃを持ち込む
お年寄りなどが次々と訪れます。
持ち込まれたおもちゃを診察しな
がら、「修理できたときのよろこ
びや達成感、受け取りに来た方た
ちの笑顔にやりがいを感じます」
と話すドクターたち。
10年以上充実した活動を続けて
いる「浦和おもちゃの病院」です
が、メンバーの高齢化という悩み
もあり、今後は若いメンバーも増
やしたいと考えています。そして、
「ゆくゆくは、埼玉県全体のおも
ちゃの病院同士で協力して、県内
どこにあるおもちゃでも、診られ
るようになりたいですね」と夢は
広がります。



▲おもちゃ5点を持参した緑区の伊藤さんファミリー。
「壊れたら捨てるしかないと思っていました。この活動
をもっと多くの人に知ってもらい、救われるおもちゃ
が増えることを願います」とエールを送ります。

広告スペース